



shbokusanpon

一隅を照らそう
9月号

344号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



比叡山メッセージ二〇二二

二〇二二年八月四日、比叡山宗教サミット三十五周年を記念して比叡山上に集ったわれわれは、平和な世界の実現と人々の安らかな暮らしを願って真摯な祈りを捧げると共に、世界の人々からメッセージを贈りたいと思う。

一九八六年にイタリア・アツンジで開かれた「世界平和祈願の日」の精神は、翌一九八七年われわれを比叡山宗教サミット「世界宗教者平和の祈りの集い」の開催に導いた。そして世界平和への願いは、如何なる宗教にとつても根本的であるとの認識に立ち、「正義と慈悲」を通じて平和の希求を訴え、同時に「宗教者は常に弱者の側に立つことを心がけねばならない」ことを再確認した。それから三十五年を経た今日、多くの人々が願ってきたにもかかわらずわれわれを取り巻く状況は、実に厳しい問題に直面しているといわざるを得ない。それは深刻な地球温暖化である。この問題はすでに避けて通れないどころか、このまま放置しておけば人類はもとより、生物の生存そのものを許さない状態になることが科学的にも証明され、これからの十年の対策が地球に決定的な影響を及ぼすことが明らかにされたのである。(中略)

人間は一人では生きられないことは自明の理ではあるが、生きていること自体が多くの連関の中に支えられていることでもある。そう考えるとき、生きていくことには「自他共に」のみならず「それを取り巻く環境と共に」円滑に生きていくという倫理的な使命があることに気がつく。それは取りも直さず神仏の叡智に生きていることでもある。そこでわれわれ宗教者は改めて多くの人々と共に、「よりよく生きる」とは何かについて考え、従来の経済成長型のライフスタイルから、環境重視型(共生型)への生き方のほうが、より人間らしい生き方であるという意識の革新に努めて行くべきであろう。

その意味で宗教者の果たすべき役割は大きく、その責務は大変重いものがあると自覚するものである。(中略)

最後に、今回の「世界宗教者平和の祈りの集い」の半年前より始まったロシアのウクライナ侵攻に対して、断固たる抗議をする。東西の冷戦という核の脅威の極限を味わった人類は、その悲惨な結末を回避して共存の道を歩む方向に舵を切ったはずであった。それにもかかわらず再び核の使用をちらつかせてまで政治的野心を遂げようとする大国が現れたことに国際社会は驚愕させられた。世界の紛争を調停する国連常任理事国であるロシアによる今回の国際法を無視した暴挙は、全く容認することはできない。

ロシアに対してウクライナからの即時撤退を強く求めるものである。何としても軍事行動を即座に中止して対話への道筋を開くべく、国連常任理事国はじめ関係国は今こそ知恵を凝らすべきであることを、声を大にして訴える。さらに戦争は人間による最大の環境破壊の行動であることを心に刻むべきであろう。

二〇二二年八月四日

比叡山宗教サミット三十五周年記念
「世界宗教者平和の祈りの集い」参加者一同

比叡山宗教サミットに寄せて

住職 中島 有淳

世界中の様々な宗教や宗派の代表者が集まって平和の祈りを捧げる「比叡山宗教サミット」は、今年で三十五周年を迎えました。今年のプログラムは、午前中、京都市内で各国のパネリストが、気候変動で宗教者が果たすべき役割について語り、午後には延暦寺に移動。午後三時から「世界平和祈りの式典」が開始されると、天候が急変し、会場横に雷が落ちる土砂降りの雨に。式典は途中で中止されたようです。

「気候変動の問題はまさに容赦なしだということ突きつけられた」ごとく、我々の日々の生活を脅かすまで深刻化しています。酷暑、電力不足、生態系の変化：私たちが出来るどころから、意識的に気をつけていかねばなりません。それこそが「一隅を照らす」ということなのですから…。

折りふしのはな

松葉牡丹(マツバボタン)

葉が松の葉に
花がぼたんの花に
似ているので
松葉牡丹というそうです
フルーツドロップみたいに
カラフルで 明るい感じの
可憐な花です
(遊)



行事案内

- 九月八日 午後二時
葉師如来大護摩供
 - 九月十二日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
 - 九月十五日(木) 年一回・午後二時
ぜんそく平癒祈禱
 - 九月十八日 午後二時
観音経読誦法要(於・神木観音堂)
 - 九月二十八日 午後二時
不動明王大護摩供
- * 毎朝六時の朝参り(公開)を実施しております
ご都合のよろしい時にはご一緒どうぞ

(マスクはご着用下さい)

9/17(土) 月例 (※要事前申込)
「止観(坐禅)会」 9:30-10:30(¥500)
「法華経を読む会」 11:00-12:00(¥300)

おとがき

ロシアの侵攻は半年が過ぎ、一向に止む気配がありません。核の使用をチラつかせた脅しには言葉が失います。

○安倍元首相の襲撃事件によって旧統一教会と政治家との闇の部分が見え、根深い真相に国葬の是非論が段々と高まって来ました。

○当山もナラ枯れの被害が深刻です。近隣の家との境にも数多くの立ち枯れの木々が。頭の痛い出来事です。

○立秋も過ぎ、暑かった今年の夏もようやく秋の気配が。四季のある日本は素晴らしいと誰もが言います。気候と同じく人間も素晴らしいと思います。先人が、その文化を大切に育んできたお陰でしょう。

○秋のお彼岸。うろこ雲にそよぐコスモスの花。若い頃「極楽は西か東か尋ねると南(皆身)にある」と教わりました。

叱られた恩を忘れず墓参り

知らず